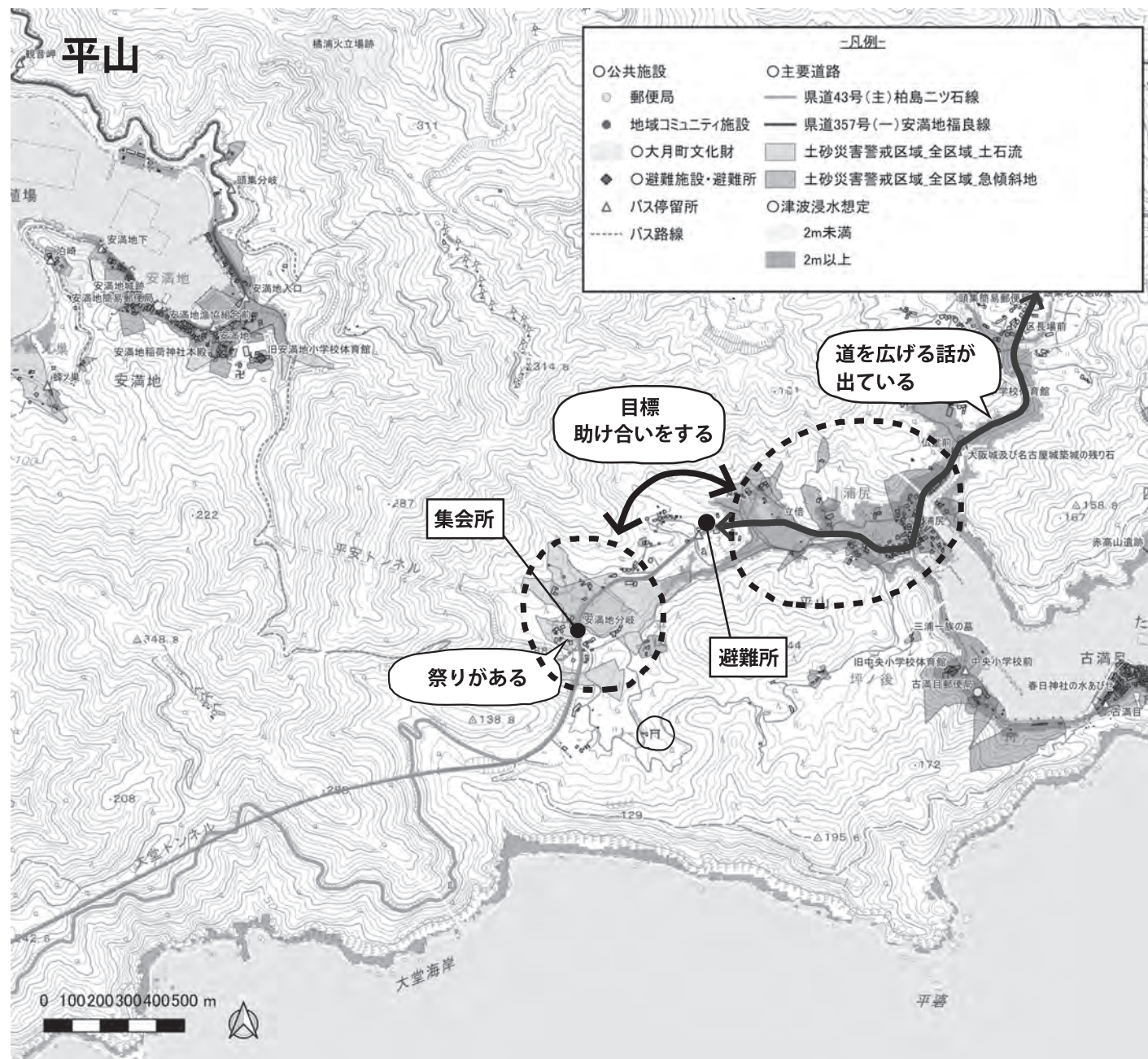




『事前復興まちづくり計画策定の流れ（予定）』

令和7年度以降も計画策定にあわせて、継続的に地区での話し合いの場を設けます。皆さまの意見をもとに、地区毎の復興まちづくり計画としてまとめていきます。
※以下は予定のため、今後変更になる可能性があります

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定の取組	→			
有識者委員会等	▼	▼	▼	▼
地区での検討	第1回（今回） 地区の状況を共有する	第2回（仮） 復興目標を考える	第3回（仮） 土地利用を考える	第4回（仮） 地区での準備を考える
				パブリックコメント

お問い合わせ

大月町役場 総務課 危機管理室
〒788-0302 幡多郡大月町弘見 2230 番地
Tel：0880-73-1140 Fax：0880-73-1380

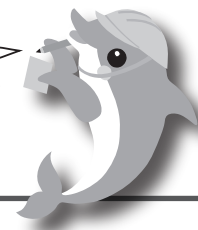


ホームページ



OTSUKI_JIZENFUKKO

大月町事前復興まちづくりの様子をホームページやインスタグラムで発信しています！ぜひフォローしてください！



大月町 事前復興 まちづくり かわら版

平山

第1号

事前復興計画に向けた地区座談会を開催。
地区についてたくさんの意見がでました！

2024年11月28日（木）9:30～11:30、平山区役場にて事前復興計画に向けた地区座談会を行いました。

地区座談会では、地区にお住まいの皆さまで改めて地区の状況を共有することを目的に、まずは、被災後も残していきたい「地区の強み・魅力」、復興まちづくりに併せて解消したい「地区の弱み・課題」を出し合いました。

その後、「地区の魅力を伸ばす」「地区の課題を解決する」ためのアイディアを出し合い、最後に「復興まちづくりの方向性」を話し合いました。

今回の結果を踏まえ、来年度以降も地区での話し合いの機会を設けていく予定ですので、今回ご都合がつかなかった方を含め、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



令和6年度から8年度まで事前復興の取組として、沿岸18地区の皆さまと話し合いを行います。

大月町は東日本大震災後から続けている避難路整備を始めとした町民の皆さまの命、生活を守り繋げる「防災」の取組と併せて、令和5年度より、災害が発生した際にどのように町や地域を復興するのかを予め考える「事前復興」の取組を開始しました。特に、南海トラフ地震による津波で被害の発生が危惧される沿岸18地区において、令和9年度の計画策定を目標に、令和6～8年度までの3年間、地域の皆さまと話し合いをしながら、地区別に復興の形を一緒に考えていきます。



大月町役場 平山の担当職員を紹介

令和9年度の計画策定にむけ、4名の町職員が地区担当職員として地域での話し合いを支援します。



中平 聖大 山下 菜々子 坂本 沙耶佳 兼松 沙織

事前復興計画の内容を充実させ、復興体制の強化や復興への対応力の向上を図ります。

皆さまと話し合った内容を
2～4ページにまとめています。

自然環境について

- 良さ**
- ・自然豊か
 - ・魚が獲れる
- 課題**
- ・海と家が近い

漁業について

- 良さ**
- ・渡船業者が2社ある（岩場まで）
 - ・漁師さんは2、3人（生活の糧にはしていない）

農業について

- 良さ**
- ・地域内での交流（野菜の交換などなど）
- 課題**
- ・野菜を作っても害獣に食べられる（柵の中で人間が畑をしている）

文化について

- 良さ**
- ・花とりが残っている
 - ・夏祭り、秋祭りがある
 - ・町の人がやるパワーがある
 - ・若い人がお祭りのために帰ってきてくれる
 - ・お宮がある
 - ・おみこしを二基出せている
- 課題**
- ・当番じゃないと祭りに来ない

暮らしについて

- 良さ**
- ・地域のつながりが強い
 - ・地域内での交流（野菜の交換など）
 - ・活動センターがある
 - ・地区住民の集いの場がある（体操など）
 - ・思いやりがある
 - ・家族みたいな住民同士の関係性
 - ・市原商店がある
 - ・手作り弁当ランチベンダー 寿がある

- 課題**
- ・地域のつながりが弱い
 - ・役場に地域の声が届きにくい
 - ・放送が聞こえない場所がある
 - ・病院に行くのも手間がかかるし健康に対する意識が低い
 - ・人口が減少している（津波がきた後に人が残るかどうかわからない）
 - ・これといった仕事もない人を呼べるものがない

- アイデア**
- ・ベッドタウン化するほどの魅力はないが家が建てやすい施策があるとよい
 - ・若者が定着できる仕事の環境づくり

道路・公共交通について

- 課題**
- ・歩道がない
 - ・県道は車の通りが多い
 - ・台風などの時電線が危ない
 - ・線路沿いの木の整備
 - ・落石する恐れのある箇所が多い
 - ・道路の冠水が心配
 - ・液状化などで復興は難しそう
 - ・普段から維持管理をする
 - ・道路の整備をしておく（町道、県道）

- アイデア**
- ・普段から道路の整備、維持管理をしておく（県道・町道）
 - ・バス路線を増やす
 - ・家の前で乗れる乗合タクシー

防災について

- 良さ**
- ・高い場所が近くにある
 - ・防災訓練をしている
 - ・避難しても食べられる食べることができる（食べ物がある）
 - ・地域で災害時の役割が明確にある（炊き出しやお風呂など）
 - ・備蓄・避難場所がある
 - ・津波の被害を受けない地域がある
 - ・山側の人は被災した人を助けるルールがある

- 課題**
- ・海の方、山の方で意識に差がある（防災意識にも）
 - ・浸水域だから備蓄が難しい
 - ・住民が自分事にできていない
 - ・防災への意識が弱い
 - ・防災訓練も参加者が限られている
 - ・常備薬を防災センターに備蓄する取り組みが進まない
 - ・浦尻の人が避難できるか（高齢者など）
 - ・孤立の可能性がある

- アイデア**
- ・浸水被害にあわない地域の人の物資を提供してもらう
 - ・沢の水を飲めるようにできる機械があればよい
 - ・車で避難する
 - ・集会所の燃料備蓄、非常電源の確保
 - ・建物の耐震化
 - ・ブロック塀の撤去
 - ・自主防災に任せすぎず行政にリードしてもらいたい
 - ・地区の高台に仮設住宅を建てる（発災時）
 - ・備蓄品を事前に確認しておく（トイレなど）
 - ・声掛けをする人を決めておく
 - ・仮設住宅の場所を決めておきたい

まちづくりの方向性

●住みやすい地域づくり

- ・きれいな町づくり
- ・交通の便のよいまち

バス路線を増やす
家の前で乗れる乗合タクシー

●コミュニティを大切にした避難

- ・平山のコミュニティを維持して避難
- ・集団避難（地区復興後、地元へ戻る）
- ・ペットと一緒に逃げれる避難所

●コミュニティを大切にしたまちづくり

- ・津波のこないところに宅地をかまえて、地区ごと移転できるとよい
- ・住み慣れた場所に住みたい
- ・昔から住んでいる人はここが一番良いと思っている。
- ・高台移転（弘見に家を作り、仕事は平山で）
- ・移転するなら、便利な弘見に行きたい

みんながそれぞれに住みたい場所を選べるといいね。

